

平成 19 年度第 3 回協議会総会議事録（案）

日 時：平成 20 年 3 月 24 日（月） 17 時 30 分～19 時 40 分

場 所：（社）日本機械学会 会議室（新宿区信濃町 35 信濃町煉瓦館 5 階）

出席者（順不同、敬称略）：

担当理事 大輪 武司（芝浦工業大学）

会員代表 神谷 穹（安全工学会）、半田 務（空気調和・衛生工学会）、
岡部 進（資源・素材学会）、伊藤 政人（地盤工学会）、
野口 昭治（精密工学会）、武田 裕之（ターボ機械協会）、
児玉 孝亮（電気学会）、持田 侑宏（電子情報通信学会）、
柳田 三徳（日本応用地質学会）、斉藤 賢吉（日本建築学会）、
橋本 健（日本工学教育協会）、伊藤 眞義（日本ゴム協会）、
井上 和久（日本コンクリート工学協会）、児玉 良明（日本船舶海洋工学会）、
木村 宗明（日本分析化学会）、千田 哲也（日本マシニング・エンジニアリング学会）、
近藤 功（日本冷凍空調学会）、永田 一良（日本技術士会）、
石川 隆章（環境システム計測制御学会）

運営会議委員（会員代表との重複を除く。）

川島 一彦（東京工業大学）

事務局 柳川 隆之

配布資料：

G19-3-1：平成 19 年度第 2 回協議会総会議事録（案）

G19-3-2：平成 19 年度 CPD ワーキング・グループ検討報告書（未完原稿）

G19-3-3：ECE プログラム検討ワーキンググループ中間報告

G19-3-4：CPD 学習ガイド設定（提案）

G19-3-5：平成 19 年度事業報告案および収支決算見込み

G19-3-6：平成 20 年度事業計画案および収支予算案

議 事：

大輪理事の司会の下で議事が進められた。

1. 前回議事録の確認

2 月 4 日に開催された平成 19 年度第 2 回協議会総会の議事録案が大輪理事から説明され、
文章を修正の上、確認された。

2. 平成 19 年度 WG 活動報告

CPD WG および ECE WG の平成 19 年度活動報告案が、それぞれ、大輪主査および川島
主査から説明された。

CPD WG から提示された覚書書（案）については、各委員が持ち帰り、自団体内で検討
して、気づいた点を事務局に連絡することにした。委員の賛同が得られたら、4 月中に報
告書を配布することになった。

ECE WG については、今年度の活動報告と来年度の活動継続は了承された。桑原協議会
長が復帰したら、この検討結果を報告して意見をもらうことにした。ただ、平成 20 年度
後半に模擬講座を立ち上げて実証を行うという計画は、この WG で行うべきかどうかによ
く検討すべきであるとの意見が出された。

審議の概要は次のとおりである。

1) CPD WG について

- *覚書の第2条第2項で、日本工学会がコンピュータシステムを斡旋すると書かれているが、いくらくらいかかるのか？（橋本）今年度の活動報告と来年度の活動継続は了承された。⇒建設系 CPD 協議会と交渉しているわけでないが、電気系協議会の例に準じることになる。個々に交渉するのは大変なので日本工学会が間に入ることを考えている。（大輪）
- *電気系協議会では建設系 CPD 協議会の対価のほかに、カスタマイズの費用をソフトウェアハウスに払っている。（持田）
- *建設系 CPD 協議会のシステム導入についてはまだ正式な申し入れがなく、協議が必要である。（川島）⇒その時期にさしかかっており、きちんとした形で申し入れをする。（大輪）
- *日本工学会が斡旋するシステムはポータルサイトのことではないのか？ポータルサイトはどのくらい進んでいるのか？（伊藤、児玉(電気)）⇒まだ着手していない。（大輪）⇒期待していたのと違う。フォーマットを統一して分野間の検索ができるのを待っている。（児玉(電気)）

2) ECE WG について

- *ECE はレベルの高い内容を目指しているだけに費用と労力がかかるのではないかと。現在、当会でやっている合宿を含むコースが ECE に近いと感じた。（児玉(船舶海洋)）⇒講師謝金はそれなりのものを支払わないと質の高い中身は期待できず、従って、参加費も高くなる。お金をかけようということである。ただ、CPD と ECE は競合するものでなく補完関係にある。CPD を受けて ECE のテーマを作ることもあり得る。CPD で何が足りないかをとということから ECE を考えることでもよい。（川島）
- *平成 20 年度に実証を WG が行うというのは違和感を覚える。WG としてはいろいろな形態を考えて、会員学協会が実施しているプログラムを評価する形で情報を集約して会員にその結果を紹介する位の方がいいのではないかと。（岡部）⇒その通りと思う。情報提供をして会員が考えればよい。ただ、最初はイメージが固まっていないので、ひとつ雛形を作って、みなでサポートして実施して、意見を聞いて固めてゆく形をとることを考えている。もう少し固めたイメージを提示して、会員が実施してくれるならこの WG はサポートのみでよいと考える。（川島）

3. CPD 学習ガイド設定の提案

永田委員から、個々の技術者のキャリアパスのベースになる CPD 学習ガイド構想の提案が行われた。この提案は、CPD を企業がどう活用するかという観点から考えられており、企業での CPD 普及のパンチの効いたドライバーとなり、ひいては技術者のステータス向上につながることを期待している。日本工学会が中心になって進めてほしいとのことである。これに対して次のような議論が行われ、今後当協議会の中で議論を続けてゆくこととした。

- *IC カードのコストが下がれば各技術者が自分の CPD 記録を持つことは夢でない。（大輪）⇒知恵を貸してほしい。日本技術士会でも検討を始めようとしている。（永田）
- *大学、学協会、企業…などの連携は大切である。提案された考え方は CPD に対する社会の意識を変える鍵となり、当協議会で議論してゆくべき点である。（川島）
- *わが国の技術者市場はオープンになっておらず、囲い込みが行われている。企業の建前と本音は違う。CPD を根付かせるには企業の囲い込みを支援しないとイケない。（岡部）
- *欧米には自立した技術者という考えがある。技術者の流動性が低いわが国と違って、技術者は自己研鑽を積んで自己証明をしてゆかないと生きてゆけない環境になっている。（川島）

*技術士の資格もそうだが、資格の有無や CPD ポイントが待遇に反映されていない。欧米とのギャップを埋めないといけない（児玉(電気)）。⇒もう一息のところまで来ている。(持田) ⇒ただ、あまり行き過ぎると、エビデンスを細かく要求されるなど問題もおこる。(川島)

*社会が CPD を尊重するようになってほしい。主役は中立の立場にある学協会である。永田委員の提案は今後議論を続けてゆきたい。(大輪)

4. 平成 19 年度事業報告案および収支決算見込み

事務局から平成 19 年度の事業報告案と収支決算見込みが提示された。これを日本工学会定時総会に諮ることが承認された。

5. 平成 20 年度事業計画案および収支予算案

事務局から平成 20 年度の事業計画案と収支予算案が提示された。認定の試行の内容について質問があり、大輪理事から昨年度までに検討した機関認定方式の検証であるとの説明が行われた。また、アンケートシステムを放棄するか否かについては、現在運用を管理しているソフトハウスに一時凍結を要求し、これが不可能なら、放棄せず活用を考えることになった。その他の点は提示された案を日本工学会定時総会に諮ることが承認された。

以上